

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61057	教職論 (A) (B)	各2単位 前・後期	2	講義	大城 進 (非)
61020	教職研究 (A) (B) (A) : 前期・月曜・1限 (B) : 後期・火曜・1限				

## ■テーマ

現代社会における教職の意義や教員の役割、教員の資質能力及び職務内容等について理解を深め、教職への意欲を高めると同時に、教職へ就くための心構えを養う。

## ■授業概要

この授業は、「教職課程コアカリキュラム」における「教育の基礎的理解に関する科目」の一つであり、教職を志望する学生にとっては最初に受講する科目である。講義を通して、教職というものを多角的に見る目と深く問うていく姿勢を養うことを目標とする。その際、教職を考えるうえで核となる知識や概念を学校や教師の現実に即して論じていく。講義に加えてビデオ視聴やグループ討議、発表なども行う予定である。教員の役割・資質能力・職務内容等を理解し、受講者が自ら志望した教職への意欲を高めつつ、自分自身が近い将来に何をすべきか、自身がどうあるべきかを考える主体的、積極的、協働的な学び手、将来の実践者となっていくための基礎を身につけることを目指す。なお受講にあたっては、受講者の授業への積極的な参加を求める。

## ■到達目標

- (1) 教職の職業的特徴、社会的意義と教員に求められる資質能力を理解している。
- (2) 教員の職務内容や服務、研修、生涯学び続けることの意味、チームとしての学校内外の専門家等との協働・連携や家庭・地域との連携等について理解を深めている。
- (3) 教職の魅力と困難について理解を深め、教師に求められる基礎的資質を考察すると共に自己の適性等について顧み、進路選択の機会としてこれから何をどうしていくか、見通しを持つことができる。

## ■授業計画・方法

第1回：オリエンテーション～授業の概要説明と学習上の注意、教員免許取得の意義～

第2回：教職とは何か① 学校教育と教師について

第3回：教職とは何か② 職業的特徴と他の職業との違い

第4回：教師像を探る① 教師像の変遷と社会が求める教師像（国・県・学校・子ども）

第5回：教師像を探る② 専門職としての教師と専門性を高める仕組み（教員免許法）

第6回：教師の役割① いつの時代も求められる資質能力

第7回：教師の役割② 今後特に求められる資質能力、試験。

第8回：教師の仕事① 教科（学習）指導と学習指導要領

第9回：教師の仕事② 生徒指導と役割分担、チーム学校・協働

第10回：教師の仕事③ 学級（HR）経営と学年連携

第11回：教師の仕事④ 特別支援教育とインクルーシブ教育

第12回：教師の仕事⑤ 校務分掌と組織としての学校

第13回：教員研修と服務並びに身分保障

第14回：家庭・地域との連携並びに学校の役割

第15回：試験。講義のまとめ 教職の意義と求められる教師の姿

※第7回及び第15回の授業時でペーパーテスト（もしくは期末レポート）を実施する。

## ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

平成29年度以前入学生は、教育原理を履修済みであること。平成30年度以降の入学生は教育原理を受講すること。授業外においてもテキストを用いて学習してほしい。

## ■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（合計 30 点）・毎回の小レポート（20 点）、グループワークの結果（10 点）、定期試験（ペーパーテスト（20 点）もしくは期末レポート（20 点））（合計 40 点）。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

## ■教科書・参考文献（作品）等

□テキスト 武田明典編著『教師と学生が知っておくべき教育動向』北樹出版、2017 年

□参考文献等 以下の資料を含め、各時間の内容に関わる参考文献等は随時紹介する。

武田明典、嶋崎政男、村瀬公胤編著『現場で役立つ教育の最新事情』北樹出版、2012 年。

秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門 改訂版』有斐閣、2015 年。

当該学年度 文部科学省 全日本中学校校長会総会資料、同 全日本高等学校校長会資料。

中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」（平成 18 年 7 月 11 日）」

中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（平成 27 年 12 月 21 日）」他。

文部科学省「教員をめざそう」。

文部科学省「魅力ある教員を求めて」。

沖縄県立芸術大学教職課程委員会『教職課程年報 Vol. 1』2017 年 3 月。

沖縄県立芸術大学教職課程委員会『教職課程年報 Vol. 2 (1)』2017 年 11 月。

沖縄県「沖縄県教育振興基本計画【後期改訂版】（平成 29 年 8 月）」

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61021	教育原理 (A) (B) (A) クラス (火曜・2限) (B) クラス (水曜・2限)	各2単位 後期	1	講義	芳澤 拓也

### ■テーマ 人間形成と教育

※この授業は旧「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」、新「教育職員免許法施行規則」における「教育の基礎的理解に関する科目」であり、教職必修科目です。

### ■授業概要 【題目】人間形成と教育

中学校教員、高等学校教員は、生徒達の人間形成に関わる仕事をしています。その仕事について考えていく際、私たちは教育の分野で蓄積されてきた遺産について学習する必要があります。また同時に、今日の教育現場がどのような変遷を経て成立し、どのような課題を持っているのかについて、子ども・青年が成長する上での課題と関連づけて考察する必要があります。これらを考察するためにこの授業では、① 近現代に教育における基本的理念や概念について教育学の分野における思想、理念、歴史の蓄積をふり取りながら理解し、② 現代日本の学校教育の歩みを、その特徴、その中で発生した「教育問題」、「教育荒廃」といった課題という側面から理解しつつ、これらを子どもの発達、キャリア形成、青年が自立する際の課題と関連づけて考察していきます。

### ■到達目標

- 近現代の教育分野に関わる理念、歴史、思想、および基本的な概念について一定程度理解し、他者に解説することができる。
- 青年の自立、キャリア形成をめぐる諸課題について論理的に記述することができる。

### ■授業計画・方法

	授業内容	準備学習
1	ガイダンス：「教育原理」という科目についてー	ワークを行います。軽装で参加してください。
2	「人」と環境ーアマラとカマラらの事例を考えるー	授業後、授業内容のふりかえりを行うため、ふりかえりシートを記入します。
3	幼児の育ちにみる「自己」と「他者」ー発達と人間形成ー	
4	子どもの発見と近代教育学ー「小さな大人」から「子ども」へー	
5	近代と学校教育ー西洋と東洋ー	
6	戦後日本学校教育の歩み①ー学校、学歴競争と「教育問題」の発生ー	
7	戦後日本学校教育の歩み②ー仲間関係の変遷から見た「いじめ」「不登校」ー	
8	戦後日本学校教育の歩み③ー生徒指導の課題（「いじめ」「不登校」）ー	
9	青年期の課題①ー自立と仲間関係の意味ー	
10	青年期の課題②ーキャリア形成の足場としての「居場所」とアイデンティティ形成ー	
11	戦後日本学校教育の歩み④ー学校教育制度の揺らぎと「教育荒廃」ー	
12	近代公教育の理念としての平等	
13	戦後日本学校教育の歩み⑤ー貧困と学校ー	
14	青年期の課題③ー自立と家族、葛藤ー	
15	小テスト、まとめー現代社会と学校教育ー	

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

授業時間外において、情報を収集したり、読書をしたりしてください。

### ■成績評価の方法

**方法** 平常点（10%）、テスト（40%）、レポート（50%）。平常点は授業への参加意欲、及び「ふりかえりシート」の内容等で総合的に評価する。

**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（作品）等

J.A.L. シング『野生児の記録 1 狼に育てられた子』福村出版、1977年。NHK「こども」プロジェクト『裸で育て 君らしくー大阪・アトム共同保育所』NHK出版、2003年、フィリップ・アリエス『<子ども>の誕生』みすず書房、1980年、藤田英典他『教育学入門』岩波書店、1997年、村山士郎他『いじめ自殺ー6つの事件と子ども・学校のいま』国土社、1999年、森田洋司『いじめとは何か』中公新書、2010年、アンソニー・ギデンズ『モダニティと自己アイデンティティ』ハーベスト社2005年、中島純、芳澤拓也『人間形成と教育』野島出版、2004年、上地 完治他『沖縄で教師をめざす人のために』協同出版株式会社、2015年発行予定など。

授業は、基本的にレジュメおよび資料によって進めます。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61022	教育心理学（A）（B） （A）クラス（月曜・1限） （B）クラス（火曜・2限）	2単位 前期	2	講義	城間 祥子

■**テーマ** 生徒の心身の発達及び学習の過程を理解する。

※この授業は旧「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」、新「教育職員免許法施行規則」における「教育の基礎的理解に関する科目」であり、教職必修科目です。

### ■授業概要

生徒の学びと育ちを支えるために必要となる、発達及び学習の過程に関する基礎的な知識を身につけることを目的とする。授業の前半では発達について、後半では学習について理解を深める。

### ■到達目標

- ・人間がどのように発達するか、代表的な理論を踏まえて特徴を説明できる。
- ・学習過程に関する代表的な理論を踏まえて、教室での指導法を選択・工夫できる。
- ・生徒の学びと育ちを支える教師のあり方について自分の考えを述べることができる。

### ■授業計画・方法

- 第1回：オリエンテーションー発達と学習
- 第2回：発達① 発達の諸側面ー自分自身の成長を振り返って
- 第3回：発達② 運動と身体の発達
- 第4回：発達③ 言語と認知の発達
- 第5回：発達④ 社会性の発達
- 第6回：発達⑤ 発達障害
- 第7回：発達⑥ パーソナリティ、不適応
- 第8回：中間まとめー発達とは何か？何が発達を促すのか？
- 第9回：学習① 条件づけ
- 第10回：学習② 記憶と問題解決
- 第11回：学習③ 社会や文化の中での学び
- 第12回：学習④ 動機づけ
- 第13回：学習⑤ 教室で共に学ぶ
- 第14回：学習⑥ 教育評価
- 第15回：まとめー生徒の学びと育ちを支える教師のあり方

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・2年次以上が履修条件である。
- ・毎回、講義内容を踏まえたグループディスカッションを行い、振り返りレポートを作成する。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法** グループディスカッションへの参加（30%）、振り返りレポート（30%）、最終レポート（40%）
- 基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書**：『実践につながる教育心理学』桜井茂男（監修）、黒田祐二（編著）、北樹出版
- 参考文献**：『たのしく学べる最新教育心理学ー教職にかかわるすべてのひとに』桜井茂男（編）、図書文化  
『新教職教育講座7 発達と学習』桜井茂男・茂呂雄二（編）、協同出版  
『スタンダード学習心理学』茂呂雄二・青山征彦（編）、サイエンス社

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61023	教育方法 (A) (B) (A) クラス ( 月曜・1限) (B) クラス ( 水曜・1限)	2単位 後期	2	講義	城間 祥子

■**テーマ** 教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。

※この授業は旧「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」、新「教育職員免許法施行規則」における「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」であり、教職必修科目です。

## ■授業概要

授業づくりの基礎的な知識や技術を身につけることを目的とする。授業の前半では、授業を構成する様々な要素について理解を深める。授業の後半では、学習指導案の作成と模擬授業の実施・評価を通して、授業づくりを実践的に学ぶ。また、教育方法の歴史に関するプレゼンテーションを通して、教育方法について知識を広げると同時に、情報機器の活用に関する基礎的な能力を身につける。

## ■到達目標

- ・授業づくりの基礎的理論や教育方法の歴史を理解している。
- ・学習指導案を作成することができる。
- ・授業を行う上で必要な技術の基礎を身に付けている。
- ・情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。

## ■授業計画・方法

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：小さなレッスン
- 第3回：授業の構成要素
- 第4回：学習指導案の書き方
- 第5回：学習目標と学習評価 小テスト①
- 第6回：教材・教具・教育環境 小テスト②
- 第7回：学習形態 小テスト③
- 第8回：授業展開 小テスト④
- 第9回：学習指導案の作成
- 第10回：模擬授業の準備 学習指導案提出
- 第11回：模擬授業の実施・評価
- 第12回：「授業研究」
- 第13回：教育方法の歴史（外国編） プレゼンテーション①
- 第14回：教育方法の歴史（日本編） プレゼンテーション②
- 第15回：まとめ—資質・能力を育成するために

## ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

教育原理を履修済みであること。

## ■成績評価の方法

- 方法** 小テスト (40%)、学習指導案 (30%)、模擬授業 (20%)、プレゼンテーション (10%)
- 基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

## ■教科書・参考文献

- 「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」
- 『よくわかる授業論』田中耕治（編）、ミネルヴァ書房

61024	情報処理教育 (金曜・2限)	1単位 前期	1	講義	谷口 祐治 (非)
-------	-------------------	-----------	---	----	-----------

## ■テーマ IT 活用による教材及び校務文書等課題作成

### ■授業概要

講義前半では、パソコンの基本操作をはじめ、文書作成、及びプレゼンテーション用の資料作成、活用方法を学習し、これらの技術を「教材」、「行事案内」、「学級新聞等」の作成に活かしていけるようにする。さらに、効果的な教材作成のため写真、音声、動画といったパソコンならではの素材を活用する方法を学ぶ。講義後半では、各自テーマを決定し、ワードプロセッサとプレゼンテーションソフトを用いた課題制作及びその発表を行う。

なお、この講義は、平成29年度以前入学生を対象としたものである。

### ■到達目標

- (1) ワードプロセッサ、プレゼンテーションソフトなどの基本的な操作ができる。
- (2) ワードプロセッサ、プレゼンテーションソフトなどを用いて効果的な資料作成ができる。
- (3) インターネットを利用して情報収集を行うことができる。

教育現場において必要とされる情報技術の活用法と基礎的な知識の習得を目的とする。

### ■授業計画・方法

第1回： 講義ガイダンスとパソコンの基本操作

第2回： 学校等で使用する行事案内文の作成(1)ー学校現場で活用される学級新聞ー

第3回： 学校等で使用する行事案内文の作成(2)ー学級新聞の役割ー \*案内文の作成を題材にwordの基礎的な操作を学ぶ

第4回： 写真・イラスト・表などを使用した効果的な文書作成(1)ー学級通信の構成ー

第5回： 写真・イラスト・表などを使用した効果的な文書作成(2)ー構成の工夫ー

\*学級新聞の作成を題材に段組みや図表を用いたwordの応用的な操作を学ぶ

第6回： インターネットを利用した情報検索と教育現場における情報倫理

\*情報検索及び著作権 プライバシー等の情報倫理について学ぶ

第7回： プレゼンテーションソフトを利用した教材の作成

第8回： マルチメディア(写真、イラスト、動画、音声、アニメーション等)の取り扱い方法とプレゼンテーションにおける活用法

第9回： プレゼンテーションソフトを利用した教材の作成(スライドの構成)

第10回：プレゼンテーションソフトを利用した教材の作成(配布資料の作成)

\*マルチメディアを活用した効果的なプレゼンテーション資料の作成方法を学ぶ

第11回：課題制作ー内容の構成ー

第12回：課題制作ープレゼンテーションソフトの活用ー

第13回：課題制作ーマルチメディアの活用ー

第14回：制作課題発表ー提示資料の効果ー

第15回：制作課題発表ー提示資料の効果ー、省察(リフレクション)

### ■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

- ・ この授業は、キーボードやマウスの取り扱い方法や漢字入力等文章の入力方法を知っている者を対象としている。全く操作ができない場合、コンピューター情報論の単位取得後受講することが望ましい
- ・ 課題の保存のためUSBフラッシュメモリが必要。

### ■成績評価の方法・基準

**□方法** 授業への参加意欲(40%)・制作課題の状況・内容(60%)をふまえて評価する。ただし、制作課題発表においては、資料作成を通じたソフトウェアの操作方法の習得が目的であり、伝え方の良し悪しは評価にされない。

**□基準** 到達目標を観点として、履修規定に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(作品)等

特になし(講義資料を随時配布する。)

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61025	教育行政（木曜・1限）	各2単位 前期	2～3	講義	照屋 信治（非）

## ■テーマ

現代公教育制度の意義、原理及び構造について、その法的及び制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付け、そこに内在する課題を理解する。また、学校安全、学校と地域との連携についての理解を深める。

## ■授業の概要

上記のテーマで以下の達成目標に到達するため、教育行政の中立性、教育委員会制度、教育内容に関する制度、教育権の保障、教育財政、教職員の身分、公教育制度、地域との連携、学校安全といった内容等を、関連法規とともに学んでゆく。教員として最低限必要な教育行政、教育行政の概要を身につけてもらいたい。具体的な事例や課題を取り上げ、学生の思考の促進をめざす。授業方法としては、授業の前半は講師による問題の解説をおこない、後半は学生による意見交換・議論・課題作成などを行う。

## ■到達目標

①公教育の原理及び理念を理解している。②公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。③教育制度を支える教育行政の理念及び仕組みを理解している。④教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。⑤地域との連携及び協働による学校教育活動の意義並びに方法を理解している。⑥地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。⑦学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、学校保健安全法に基づき、危機管理並びに事故対応を含む学校安全の必要性を理解している。⑧生活安全、交通安全及び災害安全等の各領域の安全管理並びに安全教育の両面から具体的な取組を理解している。

## ■授業計画・方法

1. 教育行政と教育基本法について
2. 教育行政の中立性について
3. 教育委員会制度について
4. 教科書採択制度について
5. 教科書検定制度について
6. 学習指導要領について
7. 教育を受ける権利の保障
8. 子どもの権利条約について
9. 教育費と教育財政について
10. 学校の管理と運営について
11. 教職員の養成・採用・研修と身分保障について
12. 公立小中学校の学校選択制度と学区制について
13. 中高の接続について－6・3・3制度を考える－
14. 学校と地域の連携について－各種の制度、子どもと貧困問題を事例に－
15. 学校安全について－学校での事故と訴訟、防災、学校の取り組み－、全体のまとめ（定期試験）

## ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・教師や学生間の対話を重視した授業を行う。提示されたテーマについて意見をまとめ、発表し、議論すること。
- ・各授業回に提示されたキーワードをネット、書籍でチェックした上で受講すること。

## ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点60%、テスト30%、レポート10%。平常点は、授業での課題点であり、発言内容、授業態度、ワークシートの提出も含まれる。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

## ■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 使用しない

□テキスト 教師作成のレジメをテキストとして用いる。

□参考文献 参考書等は各回の授業で提示する。『沖縄で教師をめざす人のために』（上地完治・他編、共同出版、2016年）、『教育行政学-改訂新版』（勝野正章、藤本典裕、その他編著、学文社、2015年）など。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61026	学校カウンセリング(A)(B) (A) クラス(火曜・2限) (B) クラス(水曜・2限)	各2単位 後期	3	講義	松田 盛雄(客)

■**テーマ** 学校における教育相談の意義及び理論を理解する。

### ■授業概要

教育相談は、生徒が自己理解を深めたり学校での好ましい人間関係を築けるよう適応力を育みつつ、個性を伸ばし人格の成長を支援する教育活動である。本講義では、学校現場で多発する不登校、いじめ、非行などの多種問題に対し、それを解決するための教師の対応方法について、学校カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を習得する。また、事例の理解や解決方法の検討においてはグループ討議を行い発表する。問題解決の対応だけでなく、「予防的・開発的心理教育」の包括的な指導援助の仕方を紹介する。

なおこの授業は、旧「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」、新「教育職員免許法施行規則」に定める「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に位置づけられている。

### ■到達目標

- ・教育相談の意義や課題を理解し、カウンセリングマインドの考え方や必要性を認識する。
- ・生徒の不応答や問題行動のシグナルに気づき、背景要因や行動の意味を把握する方法を習得する。
- ・受容、傾聴及び共感的理解などカウンセリングの基礎的姿勢や面接技法を身につける。

### ■授業計画・方法

1. ガイダンス：「学校カウンセリング・教育相談」とは何か
2. 生徒指導（進路指導含む）と教育相談の関係性、教育相談の進め方
3. 思春期・青年期の発達課題
4. カウンセリング理論と技法（ロジャーズ理論）①
5. カウンセリング理論と技法（ロジャーズ理論）②
6. 事例を通して学ぶ－問題理解と解決方法（不登校・ひきこもり）①
7. 事例を通して学ぶ－問題理解と解決方法（不登校・ひきこもり）②
8. 事例を通して学ぶ－問題理解と解決方法（いじめ）①
9. 事例を通して学ぶ－問題理解と解決方法（いじめ）②
10. 事例を通して学ぶ－問題理解と解決方法（非行）
11. 発達障害の理解と支援のあり方（自閉症スペクトラム障害、ADHD、LD）①
12. 発達障害の理解と支援のあり方（自閉症スペクトラム障害、ADHD、LD）②
13. 予防・開発的心理教育－価値観・視点を変える
14. 予防・開発的心理教育－自尊感情の向上
15. 授業のまとめ及び期末試験

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・履修は3年次以上、教育心理学を履修済みであること。
- ・講義用レジュメや参考資料を多く配布するのでファイルにして活用すること。
- ・講義は技法の習得に時間を割くので、予め配付した資料は十分に読み込んで理解した上で講義に参加すること。
- ・ロールプレイや事例検討などに積極的な姿勢で取り組むこと。
- ・課題レポートを科するので、指示に従って期日までに提出すること。

### ■成績評価の方法・基準

□**方法** 評価は、平常点（20%）、レポート（40%）、定期試験（40%）などを総合的に判断して行う。平常点は授業への参加状況で判断する。レポートはコンピュータを使用して作成し提出する。

□**基準** 「到達目標」を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

□**教科書** 教科書は指定しない。教材は講義の際に配布する。

□**参考文献**

『やってみようソーシャル・スキル・トレーニング33－学級経営に生かすSST』新里健他著 グリーンチャット

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61027	教育課程 (A) (B) (A) クラス (火曜・1限) (B) クラス (木曜・2限)	2単位 前期	2	講義	城間 祥子

■**テーマ** 教育課程の意義と教育課程の編成について理解する。

※この授業は旧「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」、新「教育職員免許法施行規則」における「教育の基礎的理解に関する科目」であり、教職必修科目です。

### ■授業概要

各学校では、生徒や地域の実態を踏まえて教育課程を編成することが求められている。この授業では、カリキュラム・デザイナーとしての教師に必要な基礎的な知識を身につける。授業の前半では、教育課程及び学習指導要領について理解を深める。授業の後半では、実際に各学校でどのように教育課程を編成し、教育実践を行っているのかを具体例を通して学ぶ。

### ■到達目標

- ・学校教育における教育課程の意義を理解している。
- ・学習指導要領とはどのようなものかを説明できる。
- ・各学校で教育課程を編成する意義や方法を理解している。
- ・カリキュラム・マネジメントの意義や方法について理解している。

### ■授業計画・方法

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：教育課程とは何か
- 第3回：教育課程と学力
- 第4回：教育課程編成の原理
- 第5回：教育課程と学習指導要領
- 第6回：新学習指導要領のポイント
- 第7回：学習指導要領の変遷
- 第8回：諸外国の教育課程
- 第9回：中間まとめ、小テスト
- 第10回：各学校における教育課程の編成
- 第11回：学習指導要領と教育実践①音楽科
- 第12回：学習指導要領と教育実践②美術科
- 第13回：横断的・総合的な学習のカリキュラム
- 第14回：カリキュラムのマネジメントと評価
- 第15回：まとめ—カリキュラム・デザイナーとしての教師

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

教育原理を履修済みであること。

### ■成績評価の方法

- 方法** 小テスト (30%)、振り返りレポート (40%)、最終レポート (30%)
- 基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献

- 「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」
- 『よくわかる授業論』田中耕治(編)、ミネルヴァ書房

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61062 61028	生徒・進路指導論 生徒指導論（進路指導含む）	2単位 後期	2	講義	芳澤 拓也 松田 盛雄（客）

## ■テーマ 生徒指導及び進路指導の理論や具体的方法を学ぶ

※この授業は旧「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」、新「教育職員免許法施行規則」における「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」であり、教職必修科目である。

## ■授業概要

学校現場で発生する多様な問題に対し、その背景要因を分析して具体的な解決方法を考え、他の教員及び関係機関と連携しながら組織的に対応するために必要な基本的知識や技術を学ぶ。家族を背景要因とした問題や学校現場での生徒集団の関係性から発生する問題などに対し、教師はどう援助・指導するのか、また、自立へ向けて職業観や生き方を模索する青年期をいかに支援できるか、その方法論を学び、実践できる力量を育成する。また、生徒指導及び進路指導・キャリア教育に関して、具体的な事例検討や指導案作成などを通して基本的知識とその活用方法について学ぶ。

## ■到達目標

- ・学校で発生する多種の問題に対応する生徒指導上の基本的理論を理解し、課題への具体的対応方法を身につける。
- ・多くの事例に即して学び、多様な個性の生徒に対応できる柔軟な指導力や実践力を身につける。
- ・社会的・職業的自立に向けて生徒個々の資質・能力を育み、進路選択ができるよう支援するキャリア教育の指導方法を身につける。
- ・進路指導・キャリア教育の視点に立った授業、活動、ガイダンス、カウンセリングのあり方を学び、これらを組織、計画、実践、評価する考え方を理解する。

## ■授業計画・方法

1. ガイダンス：「生徒指導及び進路指導」について（担当：松田盛雄、芳澤拓也）
2. 生徒指導及び進路指導の意義と内容、及び教育相談との関係（担当：松田盛雄、芳澤拓也）
3. 問題行動の理論と実際・対応①（生徒の不適応行動：不登校と引きこもり）（担当：松田盛雄）
4. 問題行動の理論と実際・対応②（いじめの問題）（担当：松田盛雄）
5. 問題行動の理論と実際・対応③（基本的生活習慣と非行）（担当：松田盛雄）
6. 問題行動の理論と実際・対応④（学校不適応と発達障害）（担当：松田盛雄）
7. 生徒指導の実際—対人関係能力を育てる①（自尊感情を高める）（担当：松田盛雄）
8. 生徒指導の実際—対人関係能力を育てる②（自己主張の仕方：アサーショントレーニング）（担当：松田盛雄）
9. 生徒指導の実際—対人関係能力を育てる③（問題解決の仕方：ステップ&ケース）（担当：松田盛雄）
10. 揺れる学校から社会への移行と「キャリア教育」「職業教育」（担当：芳澤拓也）
11. カリキュラムとしての「キャリア教育」—職業に関する体験活動を軸としてキャリア教育の目標、計画、評価、ガイダンス—（担当：芳澤拓也）
12. キャリア発達の視点と「キャリア教育」（担当：芳澤拓也）
13. 多様化する卒業後の進路・生活と「キャリア教育」—労働者と法—（担当：芳澤拓也）
14. 多様化する卒業後の進路・生活と「キャリア教育」—やりかしの搾取・就労1年目の壁—（担当：芳澤拓也）
15. 授業のまとめ及び期末試験（担当：松田盛雄、芳澤拓也）

## ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・教育心理学を履修済みであることが望ましい。
- ・講義に関する資料や教材は可能な限り前の授業で配布するので、資料を予習してから講義に参加すること。
- ・事例討議などグループワークを多く取り入れるので、議論には積極的に参加すること。
- ・課題レポートを科するので、指示に従って期日までに提出すること。

## ■成績評価の方法・基準

□**方法** 評価は、平常点（20%）、課題レポート（40%）、期末試験（40%）などを総合的に判断して行う。平常点は授業への参加状況や参加意欲で評価する。課題レポートはコンピューターで作成し提出する。

□**基準** 「到達目標」を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

## ■教科書・参考文献（作品）等

□**教科書**：教科書は指定しない。教材は講義の際に配布する。

□**参考文献**：文部科学省『生徒指導提要』、河野壮子他編著『生きる力を育む生徒指導』北樹出版、河村茂雄著『生徒指導・進路指導の理論と実際』、図書文化社

61051	美術科教育法 I	2単位 後期	2	講義	瑞慶山 昇 (非)
-------	----------	-----------	---	----	-----------

■**テーマ** 中学校美術・高等学校芸術（美術）における教育目標、育成が目指される資質・能力を理解すると同時に、学習指導要領についての理解を深める。その上で、指導、評価、教育方法を学ぶ。

### ■授業概要

美術教育に関する基礎的な理論や、美術教育の歴史の流れについて学ぶ。また、情報機器を使った学習の可能性について理解する。

### ■到達目標

- (1) 中学校美術、高等学校芸術（美術）の学習指導要領に示された教科の目標、育成が目指される資質・能力及び内容を理解している。
- (2) 美術教育及び学習評価の考え方を理解している。
- (3) 授業における情報機器活用の効果を理解している。

### ■授業計画・方法

基本的には講義による授業となるが、内容によっては、演習等も含めたものとなる。

1. ガイダンス、授業概要
2. 美術教育の特徴（教材研究）
3. 美術教育の歴史（教材研究）
4. 戦後の学習指導要領の変遷
5. 学習指導要領（目標、各学年の目標及び内容）
6. 学習指導要領（指導計画の作成と内容の取扱い）
7. 指導と評価の一体化、学習指導のPDCA
8. 評価の方法
9. 美術表現の発達過程（教材研究）
10. 生徒が主体的に学ぶ（教材研究）
11. 模擬授業—表現活動の内容と指導、指導案作成—
12. 模擬授業—授業鑑賞活動の内容と指導、指導案作成—
13. 美術科における情報機器活用の有効性
14. 美術館等との連携（地域の人材、施設設備の活用）
15. まとめと課題

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

生徒にとって「美術」を学ぶことはどのような意義を持つか、指導する立場として課題意識をもって臨むこと。

### ■成績評価の方法・基準

□**方法** レポート試験（70%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書 参考文献等

中学校学習指導要領（29年3月公示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（最新版）

中学校学習指導要領解説（29年6月 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 美術編（最新版）

61052	美術科教育法Ⅱ	4単位 通年	3	講義	瑞慶山 昇 (非)
-------	---------	-----------	---	----	-----------

■**テーマ** 中学校美術・高等学校芸術（美術）の教育目標、育成が目指される資質・能力についての理解を基礎に、学習指導要領を参照しながら授業を計画・構想・実践する。

### ■授業概要とねらい

中学校美術・高等学校芸術（美術）における、年間指導計画作成や、学習支援活動と評価を行うための基礎的な技能を全般的に学び、グループワークで教材研究、資料の収集、指導案作成、及び模擬授業を行う。また、情報機器を活用した授業について取り組む。

### ■到達目標

- (1) 表現領域と鑑賞領域の題材編成のあり方を理解し、年間指導計画が作成できる。
- (2) 表現及び鑑賞の指導から評価に至るまで授業を設計し、学習指導案を作成、授業を実践することができる。
- (3) 情報機器を活用した授業実践ができる。

### ■授業計画・方法

[前学期]		[後学期]	
1	ガイダンス、授業概要	1	表現（絵画・版画）模擬授業のためのグループ協議
2	美術科経営の実際 (学習指導要領、美術科経営計画、年間指導計画)	2	表現（絵画）模擬授業と授業評価
3	指導案作成上の基本事項 (目標、評価、導入、展開、まとめ)	3	表現（版画）模擬授業と授業評価
4	情報機器を活用した授業づくり	4	発達段階及び個に応じた指導と評価
5	表現（絵画・版画）領域の授業実践例研究	5	表現（彫刻・立体）模擬授業のためのグループ協議
6	表現（絵画・版画）領域の資料収集と指導案作成	6	表現（彫刻）模擬授業と授業評価
7	表現（絵画・版画）領域の指導案評価	7	表現（立体）模擬授業と授業評価
8	表現（彫刻・立体）の授業実践例研究	8	表現（デザイン・工芸）模擬授業のためのグループ協議
9	表現（彫刻・立体）領域の資料収集と指導案作成	9	表現（デザイン）模擬授業と授業評価
10	表現（彫刻・立体）領域の指導案評価	10	表現（工芸）模擬授業と授業評価
11	表現（デザイン・工芸）領域の授業実践例研究	11	鑑賞（対話型・アートゲーム） 模擬授業のためのグループ協議
12	表現（デザイン・工芸）領域の資料収集と指導案作成	12	鑑賞（対話型）模擬授業と授業評価
13	表現（デザイン・工芸）領域の指導案評価	13	鑑賞（アートゲーム）模擬授業と授業評価
14	鑑賞領域の授業実践例研究	14	模擬授業の総括
15	鑑賞領域の資料収集と指導案作成（前期まとめ）	15	表現領域と鑑賞領域の有機的な関係性（後期まとめ）

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

「教育原理」を履修済みであること。

### ■成績評価の方法

□方法 レポート試験（60%）、模擬授業の発表内容（40%）

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（作品）等

中学校学習指導要領（29年3月公示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）

中学校指導要領解説（29年6月 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 美術編（最新版 文部科学省）

61053	美術科教育法Ⅲ	2単位 前期	4	講義	瑞慶山 昇 (非)
-------	---------	-----------	---	----	-----------

■**テーマ** 中学校美術・高等学校芸術（美術）の教育目標、育成が目指される資質・能力、及び学習指導要領の内容の理解を立ちながら、美術教育を深めるための授業、年間計画のあり方を学ぶ。

### ■授業概要とねらい

中学校美術・高等学校芸術（美術）における、年間指導計画作成や、学習支援活動と評価を行うための基礎的な技能を全般的に学び、グループワークで教材研究、資料の収集、指導案作成、及び模擬授業を行う。また、情報機器を活用した授業について取り組む。

### ■到達目標

- (1) 表現領域と鑑賞領域の題材編成のあり方を理解し、年間指導計画が作成できる。
- (2) 表現及び鑑賞の指導から評価に至るまで授業を設計し、学習指導案を作成することができる。
- (3) 情報機器を活用した授業実践ができる。

### ■授業計画・方法

	内 容
1	ガイダンス、授業概要
2	中学校・高等学校学習指導要領の理解
3	美術の学習における動機付けと教材研究、教材開発および評価
4	表現（絵画・版画）の資料収集と教材作成
5	模擬授業－表現（絵画・版画）教材、学習指導案作成－
6	表現（彫刻・立体）の資料収集と教材作成
7	模擬授業－表現（彫刻・立体）教材、学習指導案作成－
8	表現（デザイン・工芸）の資料収集と教材作成
9	模擬授業－表現（デザイン・工芸）教材、学習指導案作成－
10	鑑賞（対話型・アートゲーム）の資料収集と教材作成
11	模擬授業－鑑賞（対話型・アートゲーム）教材、学習指導案作成－
12	情報機器を活用した指導の実践例
13	情報機器を活用した指導法をグループで検討
14	模擬授業－情報機器を活用した指導法、学習指導案作成－
15	まとめと課題

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

資料収集を主体的に行い、より効果的な指導工夫に取り組むこと。

### ■成績評価の方法

- 方法 レポート試験（60%）、プレゼンの内容（40%）
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書参考文献（作品）等

中学校学習指導要領（29年3月公示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）  
 中学校学習指導要領解説（29年6月 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 美術編（最新版 文部科学省）

61032	工芸科教育法	4単位 通年	3	講義	赤嶺 善雄 (非)
-------	--------	-----------	---	----	-----------

■**テーマ** 学習指導要領を理解し、適切な学習指導案が書け、好ましい授業を計画し実践できる能力を習得する。

### ■授業概要

各回のテーマに応じた資料講読を通しての議論を主として、学習指導案作成や模擬授業等の演習も行う。毎回、授業の最後に、理解度を測るリアクションペーパーを書いて提出させ、次回の冒頭で、それを材料にした「ふり返し」を行ない理解度を深める。受講生には、これまでの工芸についての学習成果とこの科目履修で得た知識を基に、実際に学校現場で実践することを想定して学習指導案を作成させ、それを受講生全員で共有し、より良い指導案に高めていけるよう議論する。模擬授業は自ら作成した指導案の一部を切り取って実施する。受講生全員が指導者を経験し、翌週、受講生全員で振り返り評価する。

### ■到達目標

- (1) 学習指導要領の内容を理解し、それを指導の展開や評価に結びつけた授業を構想・実践できる。
- (2) 高等学校芸術科工芸における学習方法を理解し、適切な教材や情報機器を活用した授業を構想・実践できる。
- (3) 芸術分野にのみならず社会における工芸の意味や役割を理解し、これらを授業に関連づけることができる。

### ■授業計画・方法

[前学期]		[後学期]	
1	オリエンテーション(シラバス確認) およびレポート課題「教師になるということ」	1	学習指導案について ④ 共有(教材研究)(情報機器及び教材の効果的な活用法を含む)
2	課題①の共有	2	模擬授業について
3	学習指導要領を理解する ① 高等学校学習指導要領解説第1章 総説	3	第1回模擬授業 (「表現」の授業 ① 導入部を中心に)
4	学習指導要領を理解する ② 高等学校学習指導要領解説第2章第7節 工芸I	4	第1回模擬授業のふり返し (導入部の意義と活用できる教育方法)
5	学習指導要領を理解する ③ 高等学校学習指導要領解説第2章第8節 工芸II	5	第2回模擬授業 (「表現」の授業 ② 展開部を中心に)
6	学習指導要領を理解する ④ 高等学校学習指導要領解説第2章第9節 工芸III	6	第2回模擬授業のふり返し (展開部における教材、教材研究の重要性)
7	学習指導要領を理解する ⑤ 高等学校学習指導要領解説第3章および年間指導計画例	7	第3回模擬授業 (「表現」の授業 ③ まとめを中心に)
8	学習指導要領を理解する ① 中学校学習指導要領解説第1章 総説	8	第3回模擬授業のふり返し (まとめの意義と授業の計画、実践、評価)
9	学習指導要領を理解する ② 中学校学習指導要領解説第2章第1節 1 教科の目標	9	第4回模擬授業 (「表現」の授業 ④ 鑑賞を中心に)
10	学習指導要領を理解する ③ 中学校学習指導要領解説第2章第2節 1 内容の構成	10	第4回模擬授業のふり返し (「表現」の授業における「鑑賞」の意味)
11	学習指導要領を理解する ④ 中学校学習指導要領解説第2章第2節 2 各領域及び[共通事項]の内容	11	第5回模擬授業 (「鑑賞」の授業)
12	学習指導要領を理解する ⑤ 中学校学習指導要領解説第4章 指導計画の作成と内容の取扱い	12	第5回模擬授業のふり返し (鑑賞の授業と活用できる教育方法)
13	学習指導案作成について ① 題材の選定 (題材設定の理由)(郷土文化理解としての工芸の学習)	13	大量生産の工業製品と工芸家の作品および民芸について
14	学習指導案作成について ② 指導計画(教材研究)	14	教師の仕事について
15	学習指導案作成について ③ 評価(情報機器及び教材の効果的な活用法を含む)	15	レポート課題「教師になるということ」および総括

## ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

「教育原理」を履修済みであること。

## ■成績評価の方法

- 方法 リアクションペーパーの記入（60%）、学習指導案作成への取り組み（10%）  
模擬授業への取り組み（20%）、レポート課題（10%）
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

## ■教科書・参考文献（作品）等

- 中学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）。
- 中学校学習指導要領（平成29年3月31日公示）比較対照表（文部科学省）。
- 中学校学習指導要領解説 美術編（平成29年6月 文部科学省）。
- 高等学校学習指導要領（最新版）
- 高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編（最新版）
- 工芸の教育（大坪圭輔著 武蔵野美術大学出版局）。
- 工芸Ⅰ（日本文教出版 教科書）、工芸Ⅱ（日本文教出版 教科書）。
- 民芸 理論の崩壊と様式の誕生（出川直樹著 株式会社新潮社）。
- 『工芸Ⅰ』『工芸Ⅱ』文部科学省検定済み教科書、その他随時教示・提示する。

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61054	音楽科教育法 I	2単位 後期	2	講義	大山 伸子 (非)

## ■テーマ 基礎技能の習得および楽曲の課題修得と教材研究への取り組み

### ■授業概要

基礎技能の習得として「音楽とリズム」(ダルクローズメソッド)の学習、及び楽曲の教材研究を通して題材の展開例や指導の方法論を学ぶ。

### ■到達目標

- ・ダルクローズメソッド(リトミック)を基軸に音楽とリズムについて習得する。【授業計画・方法 ①～⑦】
- ・教材研究として課題の歌唱とピアノ伴奏法を獲得し、題材の展開を工夫する。【授業計画・方法 (ア)～(コ)】
- ・作曲家人物研究や音楽教育史・音楽教育メソッドおよび学習指導要領についてレポート課題を提出する。

### ■授業計画・方法

第1回:	オリエンテーション	授業の進め方及びボイス・アンサンブル
第2回:	基礎技能の習得①	音楽と動き(身体表現①～⑦)(情報機器及び教材の効果的な活用法) DVD学習:ダルクローズメソッド、リトミックについて
第3回:	基礎技能の習得② 教材研究(ア)	基礎リズムの習得 「歌えバンバン」歌唱&ピアノ伴奏
第4回:	基礎技能の習得③ 教材研究(イ)	リズムパターン&リズムフレーズの習得 「うみ」歌唱&ピアノ伴奏
第5回:	基礎技能の習得④ 教材研究(ウ)	楽曲による身体即興表現 イメージ表現(1)グループ発表 (情報機器及び教材の効果的な活用法) 楽曲:熊蜂の飛行(リムスキーコルサコフ)
第6回:	基礎技能の習得⑤ 教材研究(エ)	学生の専攻楽器による身体即興表現 イメージ表現(2)グループ発表 グループによる音楽創作と即興表現創作
第7回:	基礎技能の習得⑥ 教材研究(オ)	ソルフェージュ/「高校音楽教科書 MOUSA」より 「ふるさと」二部唱&ピアノ伴奏法
第8回:	基礎技能の習得⑦ 教材研究(カ)	ボイス・アンサンブル/「ドラミング・ボイス」、ポリリズム&カノン 郷土の音楽「安里屋ユンタ」三線とピアノによる二つの弾き歌い伴奏 /他・任意の楽器による演奏
第9回:	作曲家人物研究 教材研究(キ)	沖縄の音楽教育家・作曲家「宮良長包」(情報機器及び教材の効果的な活用法) 作者研究
第10回:	アンサンブル 教材研究(ク)	6手ピアノ連弾奏法 「ジブリ音楽」他、約10曲から選曲し演奏
第11回:	作曲家人物研究 教材研究(ケ)	滝廉太郎(情報機器及び教材の効果的な活用法) DVD学習:「わが愛の譜」滝の生涯と作品を辿る
第12回:	滝廉太郎作品研究 教材研究(コ)	「荒城の月」歌唱&ピアノ伴奏法(楽器は任意)例:チェロ・三線等演奏
第13回:	学習指導要領および指導案作成	(情報機器及び教材の効果的な活用法)
第14回:	模擬授業	
第15回:	模擬授業・まとめ	

①～⑦はダルクローズメソッドによる音楽とリズムを中心とした基礎技能の習得  
(ア)～(コ)は楽曲課題の教材研究

### ■履修上の留意点

- ・予習型授業が中心で、実技課題を準備学習して授業に臨む。
- ・授業計画・方法の教材研究(ア)～(コ)は、各回授業の前回授業に課題を受け、次回授業に発表し評価を受ける。
- ・楽曲の題材を生かした展開例を工夫する。

□準備するもの:①～⑥の音楽リズム学習は身体表現を行うので軽装で動きやすいシューズで臨むこと。

## ■成績評価の方法・基準

- 方法 ①平常点60点(37.5%) ②実技課題70点(43.75%) ③レポート課題20点(12.5%)  
④指導案作成・模擬授業10点(6.25%) ※実技の課題に伴う評価を毎回の授業で行う/教材研究(ア)～(コ)
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

## ■教科書・参考文献

- 教科書：特になし
- テキスト：授業に必要な資料(プリント)を配布する。
- 参考文献：
- 「中学校音楽教科書」教育芸術社
  - 「高等学校音楽教科書 MOUSA I・II」教育芸術社
  - 「中学校・高等学校教職課程音楽科教育法」教育芸術社
  - 「中学校学習指導要領」(最新版)
  - 「高等学校学習指導要領」(最新版)。
- その他、参考資料等は都度、提示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61055	音楽科教育法Ⅱ	4単位 通年	3	講義	小波津繁雄（非）

■**テーマ** 中学校及び高等学校の音楽科教員として必要とされる基礎的な能力や資質の向上を図る。

### ■授業の概要

音楽教育に関する主な法規や教育課程及び学習指導要領を把握し、内容を理解した上で、音楽教科における教材研究や学習指導の方法、指導計画及び観点別学習評価や具体的評価規準、学習指導案の作成方法などについて学習し実践指導や模擬授業を行う。

### ■到達目標

中学校、高等学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力について理解する。その基礎の上に、以下の四点の実現を目指す。

- (1) 教科書に掲載されている主な教材（楽曲）の指導並びにピアノ伴奏ができる。
- (2) 器楽（リコーダー）の基礎指導ができる。
- (3) 教材研究を行い学習指導案を作成できる。
- (4) 学習指導案に基づき模擬授業ができる。

### ■授業計画・方法

1. オリエンテーション：授業内容の説明
2. 中学校・高等学校音楽科学習指導要領の内容理解
3. 音楽科の目標や教育課程について
4. 各領域と共通事項の内容確認
5. 指導内容について理解する
6. 教材研究の方法と資料作成（ICT活用方法について）
7. 指導計画の作成方法について（ICTの活用推進について）
8. 略指導案（15分授業）を考え試作する ※以下第9回～第14回において各自15分授業実践体験
9. 学習指導案の作り方と作成手順について
10. 題材設定の立て方と観点別指導目標について
11. 指導目標と評価規準の関わり及び評価方法
12. 学習指導案の事例研究
13. 模擬授業の内容研究と学習指導案作成（1）—解説— ※予め、領域や主教材と関連教材を考える
14. 模擬授業の内容研究と学習指導案作成（2）—実践— ※予め、領域や主教材と関連教材を考える。  
※第14回授業終了した段階で歌唱実技テスト（ピアノ弾き歌い）を実施する。
15. 各自模擬授業体験（第一グループ）—学習指導要領と学習指導案—
16. 各自模擬授業体験（第二グループ）—単元の指導目標と本時の授業目標—
17. 各自模擬授業体験（第三グループ）—指導目標と教材—
18. 各自模擬授業体験（第四グループ）—教材研究の方法—
19. 各自模擬授業体験（第五グループ）—教材研究と資料作成—
20. 各自模擬授業体験（第六グループ）—指導目標と指導計画（学習活動）—
21. 各自模擬授業体験（第七グループ）—指導目標と指導計画（指導上の留意点）—
22. 各自模擬授業体験（第八グループ）—題材と観点別指導目標—
23. 各自模擬授業体験（第九グループ）—指導目標と評価規準の関わり及び評価方法—
24. 各自模擬授業体験（第十グループ）—模擬授業体験のまとめ—  
※学習指導案を元に各自30分の模擬授業とする。（パワーポイントの効果的な活用）
25. 教科の授業以外の音楽活動について
26. 教育実習について
27. 教員の職務について
28. 合唱教材の表現の工夫と指揮者の役割

29. リコーダー実技テスト及びグループ発表  
30. 授業のまとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・受講者は、音楽科教育法Ⅰを履修しておくこと。
- ・アルトリコーダー（B式）を準備すること。
- ・PCにより指導案作成（word）及びeメール操作ができること。

■成績評価の方法・基準

□方法

平常点(30%)、模擬授業・指導案・自己評価(35%)、実技テスト(25%)、授業への関心・意欲・態度(10%)

□基準

到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書

- ①2012年改訂版、中学校・高等学校教職課程「音楽科教育法」：教育芸術社発行
- ②中学校学習指導要領解説「音楽編」：教育芸術社（最新版）
- ③高等学校学習指導要領解説「芸術」編：教育芸術社（最新版）
- ④中学生の音楽1、音楽2・3上、音楽2・3下、中学生の器楽、：教育芸術社
- ⑤高等学校音楽教科書Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ：教育芸術社

□テキスト 随時教員が配布

□参考文献 平成29年度全日本音楽教育研究大会沖縄大会資料

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61056	音楽科教育法Ⅲ	2単位 前期	4	講義	小波津 繁雄 (非)

■テーマ 中学校・高等学校の音楽科教員として必要とされる基礎的な能力や資質の向上

### ■授業の概要

中学校・高等学校の音楽科教員として身に付けるべき、歌唱（合唱）及び器楽教材におけるピアノ伴奏や器楽（リコーダー）の指導力を高めるための技能を高める。また、音楽科教員としての視野を広げるため、世界の多様な音楽を取り入れ鑑賞指導力を身に付ける。

### ■到達目標

中学校、高等学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力について理解する。その基礎の上に、以下の三点の実現を目指す。

- ①共通教材の教材研究及び模擬授業
- ②器楽（リコーダー）の教材研究及び模擬授業
- ③鑑賞教材の教材研究及び模擬授業

### ■授業計画・方法

1. オリエンテーション：授業の内容及び進め方について  
中学生の器楽の教材よりピアノ伴奏演習及び教材研究  
※「喜びの歌」「かっこう」
2. 中学生の器楽の教材よりピアノ伴奏演習及び教材研究  
※「オーラリー」「虹の彼方に」
3. 中学生の音楽1の教材より指導案作成  
※共通教材「赤とんぼ」と「エーデルワイス」のピアノ伴奏演習及び教材研究  
※ヴィヴァルディ作曲「四季」鑑賞と教材研究
4. 中学生の音楽1の教材の模擬授業  
※共通教材「浜辺の歌」と「朝の風」のピアノ伴奏演習及び教材研究  
※シューベルト作曲「魔王」鑑賞と教材研究
5. 中学生の音楽2・3上の教材より指導案作成  
※共通教材「夏の思い出」と「夢の世界を」のピアノ伴奏演習及び教材研究  
※ヴェルディ作曲 オペラ「アイダ」鑑賞と教材研究
6. 中学生の音楽2・3上の教材の模擬授業  
※共通教材「荒城の月」とイタリア歌曲「サンタルチア」のピアノ伴奏演習と教材研究  
※日本の伝統音楽「勧進帳」鑑賞と教材研究
7. 中学生の音楽2・3下の教材より指導案作成  
※共通教材「花」と「花の街」のピアノ伴奏演習と教材研究  
※スメタナ作曲「ブルタバ」鑑賞と教材研究
8. 中学生の音楽2・3下の教材の模擬授業  
※共通教材「早春賦」のピアノ伴奏演習及び教材研究  
※日本の伝統音楽 平調「越天楽」鑑賞と教材研究
9. 高校生の音楽1より指導案作成  
※日本歌曲「この道」とドイツ歌曲「野ばら」のピアノ伴奏演習と教材研究
10. 高校生の音楽2より模擬授業  
※日本歌曲「からたちの花」とフランス歌曲「アヴィニョン橋の上で」のピアノ伴奏演習と教材研究
11. 器楽（リコーダー）指導法の研究  
※教材：リコーダー三重奏曲「シチリアーナ」「愛の挨拶」
12. 器楽（リコーダー）指導法の研究  
※教材：リコーダー四重奏曲「エーデルワイス」「芭蕉布」
13. 世界の多様な音楽鑑賞と教材研究（鑑賞におけるICTの効果的な活用）及び指導案作成  
※中国の京劇「ジンジュ」、スイスの「ヨーデル」、ボリビアの「folklore」、インドネシア「ガムラン」、他
14. 世界の多様な音楽鑑賞と教材研究（鑑賞におけるICTの効果的な活用）及び模擬授業  
※モンゴル「ホーミー」、朝鮮「タンソ」、パキスタン「カッターリー」他
15. 郷土音楽の音楽鑑賞と教材研究  
※沖縄県 組踊「執心鐘入」、「エイサー」他、定期試験

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・音楽科教育法Ⅱを履修しておくこと
- ・中学校音楽共通教材のピアノ伴奏を自主練習すること。
- ・リコーダーの基礎的な奏法を習得しておくこと。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（30%）ピアノ伴奏・リコーダー実技テスト（50%）授業への関心・意欲・態度（20%）を勘案し総合的に判断する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書：中学生の音楽1、2・3上、2・3下、器楽の本、高校生の音楽：教育芸術社発行  
中学校学習指導要領解説「音楽編」（最新版）：教育芸術社発行  
高等学校学習指導要領解説「芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編」（最新版）
- テキスト：随時配布
- 参考文献：リコーダー：吉澤実 著

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61059	道徳の理論及び指導法 (A) (B)	2 単位 前期	2 年 (H29 年以前入 学生) 3 年 (H30 年入学生)	講義	芳澤 拓也
61058	道徳の指導法 (A) (B)				
61034	道徳教育の研究 (A) (B) (A) クラス (火曜・2限) (B) クラス (水曜・2限)				

## ■テーマ 道徳の理論と実践を学ぶ

※授業は、この授業は旧「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」、新「教育職員免許法施行規則」における「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」であり、教職必修科目です。

## ■授業概要 【題目】「道徳」をめぐる教育実践

学校現場では、「特別の教科 道徳」を指導することになります。この授業では、現在の道徳教育が戦前の反省に立脚していることを確認した上で、①学習指導要領における規定、「特別の教科 道徳」の特質を理解し、②学校現場において展開されている道徳授業事例の批判的検討を行い、③「考えること」と「話し合うこと」を重視した授業、アクティブ・ラーニングの視点を念頭においた道徳授業等を検討し、④こうした授業づくりに必要な、道徳をめぐる論理の検討を経て、道徳授業を実践・評価できる力を身につけていきたいと考えています。

## ■到達目標

- ①道徳教育に関する多様な見方・考え方を知り、自分なりに考えることができる。
- ②中学校学習指導要領における道徳教育の規定を理解することができる。
- ③道徳の授業構想・計画、教材研究、授業実践・評価を行うことができる。

## ■授業計画・方法

	授業内容	準備学習
1	「道徳（教育）」とは何かー戦前の反省の視点からー	特になし
2	道徳性の発達理論 (1)ーモラルジレンマ授業の基本的原理ー	授業後、授業内容のふりかえりを行って下さい。この授業では、模擬授業の実践へ向けてグループ活動を予定しています。グループリーダーを中心に、生産的な意見交換、批判、援助と支援を可能にする関係作りを意識して欲しいと考えています。また、授業内外で話し合いが要求されます。議論を深めるためにも、広く社会へ向けてセンサーを広げて欲しいと考えています。
3	道徳性の発達理論 (2)ーモラルジレンマ授業の実際	
4	「考えること」と「話し合うこと」を重視した道徳授業 (1)ー基本的な考え方、実践事例検討キャリア形成・「家族」ー	
5	「考えること」と「話し合うこと」を重視した道徳授業 (2)ー授業実践事例をもとに考える、テキスト・リーディング「家族」ー	
6	教育実践検討 (1)ーセクシュアルマイノリティと学校ー	
7	教育実践検討 (2)ーアクティブ・ラーニング：ゴーイング・ドゥーティーー	
8	教育実践検討 (3)ーワークをとり入れた授業：ソーシャル・スキル・トレーニングー	
9	学習指導要領と学習指導案ー道徳教育と道徳科の目標・内容・評価ー	
10	道徳資料の検討と指導案作成の基本	
11	道徳資料の検討と授業展開の工夫ー多面的・多角的な学びー	
12	授業の計画ー学習指導案の構成・作成ー	
13	授業の計画ーカリキュラム・マネジメントー	
14	模擬授業ー授業の展開ー	
15	模擬授業・まとめー教材の意味ー	

## ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

教育原理を履修済みであること。

この授業では、グループ活動や発表等、みなさんの自主的な参加をを求めるワークを行う予定です。

## ■成績評価の方法

□方法 平常点 (10 点)、グループワーク、提出物、レポート (90%)。平常点は授業への参加意欲、「ふりかえりシート」の内容等で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

## ■教科書・参考文献

『中学校学習指導要領』（最新版）、『中学校学習指導要領 解説ー道徳編ー』（最新版）  
他の参考文献は、授業の中で適宜紹介します。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61060	特別支援教育(A)(B)(H31年度以降入学生)	各2単位前・後期	1~4	講義	比嘉 浩(非)
12051	障害福祉概論(H30年度以前入学生)(金曜・2限)				

■テーマ 特別の支援を必要とする幼児児童および生徒に対する理解と支援

### ■授業の概要

インクルーシブ教育システムの構築を目指した我が国の将来像を見据え、特別支援教育の仕組みや各種障害の理解、教育の実際、子ども達の関わり方、特別支援学校学習指導要領の概要、各関係機関との連携など、特別支援教育に関する基礎的・基本的な知識や教育的支援の在り方を、随時、具体的な映像やインターネット等を活用し、担当教員の実務経験を活かしてわかる授業を心掛ける。課題レポートおよびテストを実施する。

### ■到達目標

・学習上又は生活上の困難のある子供一人一人が、授業や学習活動に参加している実感及び達成感を持ちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員及び関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識及び支援方法を理解する。

### ■授業計画・方法

1. オリエンテーション インクルーシブ教育システムの構築とは(総論)
2. 特別支援教育とは  
(障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を含む)
3. 特別支援学校学習指導要領について(総論)
4. 特別支援学校学習指導要領について(各障がい種)
5. 目の不自由な子ども達(視覚障害)の理解と支援
6. 耳の不自由な子ども達(聴覚障害)の理解と支援
7. からだの不自由な子ども達(肢体不自由)の理解と支援
8. 病気の子どもや体の弱い子ども達(病弱)・重度重複障害児の理解と支援
9. 知的に遅れのある子ども達(知的障害)の理解と支援
10. 知的障害教育の実際(学校訪問に替えて)
11. 自閉症(自閉症スペクトラム)の子ども達の理解と支援
12. 発達障害の理解と支援(総論)
13. 発達障害の理解と支援(各障がい種の理解と支援)
14. 障がい者等支援に係る関係機関等との連携について
15. 定期試験およびまとめ 共生社会をめざして～(授業評価)

### ■履修上の留意点(授業以外の学習方法を含む)

- ・テキストや配布レジメは授業終了後も各自十分に読み込むこと。資料はファイルを用意し一冊にまとめ活用すること。
- ・特別支援教育や障害に関する新聞記事やニュースに関心を持ち、領域を横断する汎用的能力を身に着けること。
- ・特別支援教育に関する「課題レポート」は本講最終日までに提出すること。ミニレポートは指定した日。
- ・欠席5回以上の者には単位を与えない規定になっているので注意のこと。

### ■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点30%、レポート30%・期末テスト40%等 総合的に評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(資料)等

- 教科書・テキスト 全国特別支援学校校長会編著『特別支援学校のすべてがわかる教員をめざすあなたへ』  
文部科学省『特別支援学校学習指導要領(最新版)』
- 参考文献 授業中に適宜資料を配付する。

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61035	特別活動	2単位 後期	3	講義	芳澤 拓也

### ■テーマ 集団的な学び、その計画と指導

※授業は、この授業は旧「教育職員免許法施行規則」に定める「教職に関する科目」、新「教育職員免許法施行規則」における「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」であり、教職必修科目です。

### ■授業概要 【題目】「特別活動」の研究

ここでは、「なすことによって学ぶ」（特別活動）という学習論・指導原理を学んでいきます。具体的には、「なすこと」による学習が、①学校教育の中で歴史的にどのように位置づけられてきたか、②学習指導要領においてどのように位置づけられているか、③他教科や地域との関わりを含めつつ、どのように計画、実践、評価するものとして構想されているのか、これらを具体的な事例を参照しながら学んでいきます。学習を通じて、「なすこと」による学習が、求められる資質・能力論との関係で再構成されつつあることを理解しつつ、集団や社会の中で通用する自分づくりのあり方について考察していきたいです。

### ■到達目標

- ①学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を知り、理解することができる。
- ②教育課程における特別活動の位置づけと他教科等との関連を知り解説することができる。
- ③学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事等の特質と指導のあり方を知り、解説することができる。
- ④合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を知り、例示することができる。

### ■授業計画・方法

	授業内容	準備学習
1	「特別活動」における学び—集団的な学び、合意形成、意志決定—	特になし
2	特別活動の歴史—戦前・戦中・戦後、学習指導要領における特別活動の位置づけ—	授業後、授業内容のふりかえりを行って下さい。授業で学んだ内容に関わって広く社会へ向けてセンサーを広げて欲しいと考えています。授業時間外において、情報を収集したり、読書をしたりしてください。
3	特別活動における「指導」の意味	
4	学習指導要領から読み取る特別活動の目標と内容—3つの領域と育成が目指される資質・能力—	
5	年間（行事）計画と生徒会の役割	
6	教室内の人間関係①—「スクール・カースト」とは何か—	
7	教室内の人間関係②—「スクール・カースト」をどう読むか—	
8	学級経営の見通し①—学級目標・いじめの萌芽への指導例—	
9	学級経営の見通し②—学級組織の編成・生徒会との連携・合意形成—	
10	学級経営の見通し③—学校行事の活用・トラブルと班の活用・合意形成・意志決定—	
11	発達障がいのある生徒とともにある特別活動	
12	生徒の実態と年間計画—年間計画・他教科とのかかわり・地域連携—	
13	学級経営案と学級活動指導案	
14	学級活動指導案の作成	
15	キャリア教育と特別活動	

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

教職課程関連の所定の科目を履修済みであること。

### ■成績評価の方法

- 方法 平常点（10点）、グループワーク、提出物、レポート（90%）。平常点は授業への参加意欲、「ふりかえりシート」の内容等で総合的に評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献

『中学校学習指導要領』（最新版）、『高等学校学習指導要領』（最新版）、『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（最新版）、『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（最新版）。他の参考文献は、授業の中で適宜紹介します。

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61045 61042	教育実習（長期） 中学校教育実習 （事前・事後指導を含む）	5単位 通年	4	講義 実習	芳澤 拓也 城間 様子

■**テーマ** 観察・参加・実習という方法で学校現場における教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する。

### ■授業概要

「教育実習」は、大学における事前指導、学校現場における教育実習、大学における事後指導の3部から構成され、これらすべての授業・実習に参加することによって単位が認定される。学校現場における教育実習は大学で習得した一般教養の知識、専門教科や教職科目に関する理論や技術を、実際の学校教育の場面で生徒との直接的なふれ合いの過程を通して、応用する貴重な機会である。経験豊かな指導教諭のもとで指導を受け、教職体験を積みながら、教員に必要とされる基礎的な知識や技能を修得し、教員となるための教育実践の基礎的能力と態度を培うことを目標とする。

なお、教育実習（長期）については、平成30年度以降入学生を対象としたものである。

### ■到達目標

- ①教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
- ②生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
- ③指導教員等の実施する授業を自分なりの視点を持って観察し、事実即して記録することができる。
- ④教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
- ⑤学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。
- ⑥学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
- ⑦学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）を実地に即して身につけるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。
- ⑧学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。
- ⑨教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わるすることができる。
- ⑩学校現場における教育実習を総括し、教員となるための基礎的能力と態度について意見を述べるすることができる。

### ■授業計画・方法

【事前指導】（5月上旬） 教育実習に先立ち行なわれる事前指導は、中学校や高等学校の教員及び教育センターの指導主事など指導的立場にある現職教員による特別講義と本学の教職課程の教員で以下の内容で講義を分担する。講義を通して教育現場に関する知識や実情を習得し、派遣実習校での実習が円滑で実り豊かなものとなるようにする。

- 1 教育実習の意義と目的、内容
- 2 中学校の教育と教育実習生に望むこと
- 3 特別活動について
- 4 生徒指導・教育相談について
- 5 ホームルーム活動について
- 6 中学校美術科・中学校美術科の指導と展開（学習指導案の作り方）
- 7 中学校美術科・中学校音楽科の指導と展開（学習指導案の作り方）
- 8 中学校の現状と課題への対応
- 9 卒業生と語る・具体的アドバイス
- 10 教育実習の心構えと注意すべき事項
- 11 「道徳の時間」の指導
- 12 学級経営について
- 13 研究授業の持ち方① 導入・展開・まとめ
- 14 研究授業の持ち方② 評価
- 15 事前指導のまとめ

## 【教育実習】

本県では毎年9月に指定された期間、県外はそれぞれの実習校の指定した日程で実施する。中学校の教育活動を実際に体験し、生徒への理解を深めるとともに、美術・音楽の教科指導、道徳教育の実践的指導能力を高める。また、学級活動や学校行事等の特別活動に参加し、学校における教職員の職務を理解して、中学校の教員として必須の基礎的能力や資質を育成することを目標とする。なお、具体的な教育実習期間は教育実習校との調整によって決定される。

## 【事後指導】

実習終了後の事後指導は、学生各自が教育実習から得た実習体験について、学生間で広く意見交換を行なう。加えて、実習体験記を『龍樋—教育実習体験記』に掲載し刊行する。

## ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

実習校の評価、事前・事後指導における平常点や課題提出などを総合的に評価する。

## ■成績評価の方法

□**方法** 実習校による評価、事前指導・事後指導における平常点、および提出物（先輩からのアドバイス、教育実習体験発表会レジュメ、教育実習体験記『龍樋』等）

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

## ■教科書・参考文献（作品）等

□**参考図書**：『新編 教育実習の常識』教育実習を考える会 蒼丘書林 2000年

61046 61043	教育実習（短期） 高等学校教育実習 （事前・事後指導を含む）	3単位 通年	4	講義 実習	芳澤 拓也 城間 祥子
----------------	--------------------------------------	-----------	---	----------	----------------

■**テーマ** 観察・参加・実習という方法で学校現場における教育実践に関わることを通し、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する。

### ■**授業概要** 【題目】教育実習への自覚と期待

「教育実習」は、大学における事前指導、学校現場における教育実習、大学における事後指導の3部から構成され、これらすべての授業・実習に参加することによって単位が認定される。学校現場における教育実習は大学で習得した一般教養の知識、専門教科や教職科目に関する理論や技術を、実際の学校教育の場面で生徒との直接的なふれ合いの過程を通して、応用する貴重な機会である。経験豊かな指導教諭のもとで指導を受け、教職体験を積みながら、教員に必要とされる基礎的な知識や技能を修得し、教員となるための教育実践の基礎的能力と態度を培うことを目標とする。

なお、教育実習（短期）については、平成30年度以降入学生を対象としたものである。

### ■**到達目標**

- ①教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
- ②生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
- ③指導教員等の実施する授業を自分なりの視点を持って観察し、事実即して記録することができる。
- ④教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
- ⑤学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。
- ⑥学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
- ⑦学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）を実地に即して身につけるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。
- ⑧学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。
- ⑨教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わる事ができる。
- ⑩学校現場における教育実習を総括し、教員となるための基礎的能力と態度について意見を述べる事ができる。

### ■**授業計画・方法**

#### 【事前指導】（5月上旬）

教育実習に先立ち行なわれる事前指導は、中学校や高等学校の教員及び教育センターの指導主事など指導的立場にある現職教員による特別講義と本学の教職課程の教員で以下の内容で講義を分担する。講義を通して教育現場に関する知識や実情を習得し、派遣実習校での実習が円滑で実り豊かなものとなるようにする。

- 1 教育実習の意義と目的、内容
- 2 高等学校の教育と教育実習生に望むこと
- 3 特別活動について
- 4 生徒指導・教育相談について
- 5 ホームルーム活動について
- 6 高等学校美術科・高等学校美術科の指導と展開（学習指導案の作り方）①
- 7 高等学校美術科・高等学校音楽科の指導と展開（学習指導案の作り方）②
- 8 高等学校の現状と課題への対応
- 9 卒業生と語る・具体的アドバイス
- 10 教育実習の心構えと注意すべき事項
- 11 中学校における「道徳の時間」の指導
- 12 学級経営について
- 13 研究授業の持ち方① 導入・展開・まとめ
- 14 研究授業の持ち方② 評価
- 15 事前指導のまとめ

## 【教育実習】

本県では毎年6月に指定された期間、県外はそれぞれの実習校の指定した日程で実施する。中学校の教育活動を実際に体験し、生徒への理解を深めるとともに、美術・音楽の教科指導、道徳教育の実践的指導能力を高める。また、学級活動や学校行事等の特別活動に参加し、学校における教職員の職務を理解して、中学校の教員として必須の基礎的能力や資質を育成することを目標とする。なお、具体的な教育実習期間は教育実習校との調整によって決定される。

## 【事後指導】

実習終了後の事後指導は、学生各自が教育実習から得た実習体験について、学生間で広く意見交換を行なう。加えて、実習体験記を『龍樋一教育実習体験記』に掲載し刊行する。

## ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

実習校の評価、事前・事後指導における平常点や課題提出などを総合的に評価する。

## ■成績評価の方法

□方法 欠席、遅刻、各課題に関する提出物の未提出についてはきびしく評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

## ■教科書・参考文献（作品）等

□参考図書 『新編 教育実習の常識』教育実習を考える会 蒼丘書林 2000年

61044	教職実践演習(中・高)(A)(B) (A)クラス (B)クラス	各2単位 後期	4	講義	芳澤 拓也 城間 祥子
-------	---------------------------------------	------------	---	----	----------------

■**テーマ** 教育実習実施後に行われるこの授業は、教職課程の履修プロセス全体のまとめとして位置づいている。授業を通して、以下の6点について確認していく。①教育に対する使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③生徒理解や学級経営、④教科内容等の指導力、⑤自分の得意分野を活かす力、⑥教育相談能力。

### ■授業概要 【題目】教師としての基礎的資質能力の形成

授業では第一に、教師としての使命感、責任感、教育的愛情を含む教職論、及び学校教育現場における組織・運営の実際的理解、第二に、ロールプレイ、事例検討・討論などの演習を中心に、生徒理解、学級経営、教育相談、地域における教員の役割などについての理解を深めること、第三に、専門をより現場に即した形で活かした授業作りに取り組むための模擬授業の三点を内容としている。その中で、教師としての基礎的資質能力の形成を目指す。

なおこの授業は、①受講者全員にて行う全体授業、②2クラスに別れて行う授業(1クラス20~30名程度)③教科ごとにクラスを再編して行う授業(美術工芸学部、音楽学部)に別れる)、④教職実践演習担当教員と外部講師とによって行われる授業によって構成される予定である。

### ■到達目標

教職実践演習の設置理由(文部科学省)、及び本学教職課程委員会の理念を基礎にしつつ、教職課程終了時における教師としての基礎的資質能力の形成について、評価、確認を行う。

- ①教育に対する使命感や責任感、教育的愛情の必要を再確認する。(教育に対する使命感や責任感、教育的愛情)
- ②グループワークや討論において役割を果たすことができる。(社会性や対人関係能力)
- ③生徒理解や学級経営の具体や意義を解説することができる。(生徒理解や学級経営)
- ④授業を計画・実践・評価できる(教科内容等の指導力)
- ⑤教育活動において自身の特性を活かすことの重要性を理解する。(自分の得意分野を活かす力)
- ⑥生徒・保護者・地域との関わりの具体や意義を解説することができる。(教育相談能力)

### ■授業計画・方法

- (1) 全体オリエンテーション、授業の目的と概要、履修カルテの点検(講義)
- (2) 教科教育に関する課題の明確化ー教育実習等における学修を振り返って①ー(討議)
- (3) 学校現場で必要とされるコミュニケーションをめぐる課題の明確化ー教育実習等における学修を振り返って②ー(討議)
- (4) 学校現場で求められる教師の資質の明確化ー教育実習等における学修を振り返って③ー(討議)
- (5) 学校現場等へのフィールドワーク
- (6) 「いじめ・不登校」と教育相談ーカウンセリングマインドの必要性ー(ロールプレイ・討議)
- (7) 生徒、保護者とのコミュニケーションについて(事例検討・討議)
- (8) 学級経営に活かすソーシャル・スキル・トレーニング(討議・演習)
- (9) 学級経営を考える(講義)
- (10) 学級経営案の作成(演習・討議)
- (11) 学級経営案の発表(発表と相互評価・討論)
- (12) 学習指導案(美術工芸学部、音楽学部)の作成(講義・演習)
- (13) 模擬授業(演習)教材研究と学習指導案
- (14) 模擬授業(演習)指導の方法
- (15) まとめー履修カルテを活用したこれまでの学修の振り返りー(全体討議・講義)

### ■成績評価の方法

□**方法** 提出物(学級経営案・学習指導案、レポートなど)50%、平常点50%。

□**基準** 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献(作品)等

文部科学省『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』、その他参考文献は、授業の中で適宜紹介する。